

氏名(本籍)	ば ば とも みち (岐阜県) 馬 場 智 理		
学位の種類	博 士 (文 学)		
学位記番号	博 甲 第 4189 号		
学位授与年月日	平成 19 年 3 月 23 日		
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当		
審査研究科	人文社会科学研究科		
学位論文題目	時間と他者－キルケゴール思想における実存解釈の研究－		
主 査	筑波大学教授	博士(文学)	河 上 正 秀
副 査	筑波大学教授	文学博士	伊 藤 益
副 査	筑波大学助教授	博士(文学)	桑 原 直 己
副 査	筑波大学助教授	文学博士	保 呂 篤 彦

### 論 文 の 内 容 の 要 旨

本論文は、S・キルケゴールにおける実存概念の解釈を「時間」と「他者」との両概念が交差する観点から解明した研究である。本論文は、一方で、キルケゴールの思想における実存という固有の概念用語が時間論的な諸概念を通して吟味・検証され、その実存的時間性がどこまでも絶対他者による主体の有限性の否定的自覚に立脚してはじめて解釈されうることを指摘し、他方では、実存における主体性という概念用語が超越的な絶対的存在としての神の有する他者性ないしは他性にもっぱら基点を定位してのみ解釈されうることを指摘する。また、以上のような実存解釈にしたがって、従来のキルケゴール思想解釈の研究に特徴的であった実存論的解釈に基づいて遂行されてきた主体主義的実存解釈からキルケゴール思想を能う限り解放し、そこに実存解釈の新たな転換を見出し、それによって宗教と倫理の本来あるべき関係の所在を明らかにすることを研究の最終的目的とする。本論文で扱われる文献としては、主に初期草稿『ヨハンネス・クリマクス、あるいはすべてのものが疑われねばならない』、『反復』、『おそれとおののき』、『哲学的断片』、『不安の概念』、『哲学的断片への完結的非学問的後書』等、キルケゴールがキリスト者になることへの覚醒を促すことをめざす哲学的著作いわゆる「美的著作」が中心的資料である。

本論文は、序論、第一部・第一章から三章、第二部・第四章から第五章、結論の順序にしたがって構成され、末尾に参考文献が付されている。

まず序論では、本論文に関する主題の意義と思想的背景が叙述される。そこではキルケゴールの実存概念に関する従来の研究方法が実存思想的解釈に付されてきたことへの批判の提起、またそれに伴って生じる新たな研究方法の提起、すなわちレヴィナス等の批判に象徴された現代の解釈研究の動向である絶対他者に基づく実存の解釈上の方法の提起について論述される。

第一部は、キルケゴールの実存概念がもつ時間論的な諸位相を「反復」「生成」「瞬間」等の諸概念に基づいて論究する。

第一部第一章においては、初期キルケゴールにおいて展開された哲学的思索の萌芽に相当する「懐疑」の内在的な意味を明らかにすることを通して、本論文全体の主題の基盤を提示する。それによって、初期キルケゴールの仮名著作に相当するヨハンネスの名で提示された「懐疑」概念の真意が、近代形而上学の枠の内

部で思念されたデカルト的懐疑との宗教哲学上の明確な差異や対比のもとに提示され、究明される。その結果、人間と神との存在上の絶対的差異ないしは無限の距離が実存の場で抽出された経緯、さらには絶対他者としての神のもつ絶対的な「他性」の意義の成立根拠が提示される。

第二章においては、上記に提示された神と人間との差異という主題的観点から、キルケゴールの実存の時間性の問題と深く関わっていることを指摘し、その上で時間性の主要なカテゴリーの一つである「反復」概念の意味について解明する。終末論的時間意識を背景とする「反復」が、ギリシア哲学的な「想起」との対比関係においてキルケゴールによって究明された思想的意義を抽出し、それに基づく真理内在説の否定、およびその上に立つ「反復」概念の超越的な意味、すなわち永遠である神が時間存在としての人間の実存に対して顕現するという事態を通して、真理外在の絶対的事実性とそれに伴う実存の、有限性、不条理性、「試練」の意味等を明らかにする。

第三章においては、上記「反復」概念に基づき、キルケゴールにおける実存的時間の生成としての基本的時間性すなわち過去・現在・未来の成立根拠を、ギリシア哲学におけるプラトンの時間論、ヘーゲルの時間論等との対照において解明する。それらを通して、キルケゴールの時間論が哲学的思惟ないしは知性による時間把握を超出するものであること、永遠の神の現実化としての「生成」、「瞬間」という時間概念が「絶対的に異なるもの」としての存在論的差異性において顕わになること、さらにはその現実化の時間が「不可変性」を有すること等を詳細に解明する。

第二部は、キルケゴールの実存概念を他者との関係主体として位置づけ、それによって生じる宗教的かつ倫理的実存の意義とそれに伴う諸問題を解明する。

第二部第四章においては、まず絶対他者としての神の現実化が実存的人間にとって有する諸位相を「内在」と「超越」、さらには「内在性」と「内面性」の対比的関係に基づいて詳細に吟味・検証し、それらの解明によって「内面性」、「主体性」の概念におけるキルケゴール固有の「逆説」概念の意義を明らかにする。それによってキルケゴールの実存概念がいかに他者との逆説的關係ないしは緊張的關係に定位されているかを究明する。

第五章においては、二つの倫理学、すなわち「第一倫理学」と「第二倫理学」というキルケゴールが独自に展開した倫理学の思想的内実を解明する。その際、このようなキルケゴールの倫理的領域に関して有効な批判的諸問題を提供する M・ブーバーの諸論文も詳細に考察され、キルケゴールとブーバーの差異と同一の側面を通して実存の倫理的関係のあり方が論究される。最終的に、「第一倫理学」が思惟による人間関係の普遍的關係を地平とし、そこにのみ依拠する倫理学であるのに対して、「第二倫理学」がどこまでも絶対他者の優位に根拠をおきながら、それに基づいて人間としての他者との行為的かつ実践的關係をも維持する倫理学、すなわち宗教に根ざした倫理学の提示に他ならないことを解明する。

結論においては、第一部で得られた他性に基づく時間的実存の解釈と第二部で得られた他者に対する関係主体としての実存解釈とが総合的に吟味・検討され、結論的には「時間」と「他者」の両概念が交差する地点に、本論文全体を通して展開されたキルケゴール思想における実存解釈の正当な意義を定位する。またそれによって、他者論の枠組みが人間論的位相において論じられることが多かったに従来の傾向に対して、他者そのもののメタ領域への問いに基づくキルケゴール思想の独自の意義をも提起する。

## 審 査 の 結 果 の 要 旨

本論文は、キルケゴールの全著作テキストのうち初期における諸草稿、および一般に彼の哲学的著作と見なされてきたいわゆる「美的著作」、さらに Papier 等、彼の著作の中核をなす資料を最新刊デンマーク語原典全集（1990年代以降開始され、現在も刊行中の『批評的新版全集・注解書』）を中心にして精緻に解釈し、

主題に基づいて彼の思想的内実を解明した論文である。とりわけ原典に即したキルケゴールの文献研究が、近年、研究の主流となりつつある中で、新たな思想解釈も現代における研究の喫緊の要請となっており、本論文における主題に即した基礎的研究成果は、それらの研究意義に即して充分評価に値する。また本論文の研究成果について、以下の諸点を掲げることができる。その最も主要な点は、実存解釈についての方法論である。本論文は、「序論」で指摘されているように、従来実存概念の解釈については、ドイツ実存哲学やその後の実存主義、さらには批判哲学等々の諸潮流においてキルケゴール思想を解釈してきた圧倒的な歴史がそうであったように、どこまでも実存の主体性に力点を置いた解釈が大半をなしてきたといえる。そこでは主体の否定性の側面がどこまでも実存論的な自己完結的視点において把握されることになり、ある意味で実存解釈が孤立した自己閉鎖性の傾向を免れえなかったといえる。それに対して本論文は、実存的主体の自己否定的側面の解釈を、一貫して絶対他者（神）の側から生成する営み、すなわち絶対他者の面前における実存の受動性ないしは受難性の出来事として徹底させ、「他性」の確かさを明晰にし、そこに視点を置いた新たな実存解釈を提示している。そうした解釈に基づいた本論文における「美的著作」の解釈の基礎的な研究を成し遂げた研究成果は充分首肯に値する。第一部において、絶対他者の時間化という生成における実存の時間性の構造に基づいて、反復の試練の意義を詳細に解明することで、上記の解釈を解明した意義、また第二部において、内在－超越、内在性－内面性、さらには主体性の真理－非真理における超越性、内面性、主体性等についての解釈は正当なものとして評価できる。

全体として、以上のような本論文の方法論的意図に基づいた研究の基礎的成果は果たされており、その意味で今後の著者の研究の発展は充分期待されうる。しかし問題点がないわけではない。たとえば、実存解釈に関する方法論的転換の淵源をなすブーバーやレヴィナス等の批評に関する資料面の若干の弱さ、また「第一倫理学」と「第二倫理学」との関係における倫理学的展開の多少希薄な面が指摘されうる。またキルケゴールの「美的著作」に平行する「宗教的著作」からの実存解釈的視界も別途期待されうる。いずれの点も著者の今後の研究の展開に期待すべき事柄であるが、全体として原典に即した新たなキルケゴール思想研究の方途を確立した手堅い研究としての成果は充分評価できる。

よって、著者は博士（文学）の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。